

5月が見頃！ 100年の歴史を持つ、箱根のツツジ庭園 ～庭園プロジェクトの調査により、希少品種も～



左 現在のツツジ庭園の様子
中 1935年に描かれた川瀬
巴水の版画
右上 ホテル庭園と芦ノ湖
右下 奥のシャクナゲ園

100年の歴史を持つツツジ・シャクナゲの庭園

芦ノ湖畔に佇む“小田急 山のホテル”では、5月にツツジの季節を迎えます。眼前に芦ノ湖、遠景に富士山を望む広大な庭園では、丘陵に沿って約30種3,000株のツツジが咲き誇り、訪れる人々を華やかに出迎えます。

この土地は三菱四代目社長の岩崎小彌太男爵^{こやた}の別邸があったところです。庭園のツツジの多くは別邸時代に植えられ、中には樹齢100年以上経つ株や、人の背丈を越すものもあります。つぼみはピンク、赤、紫、白の順にほころび始め、大小の丸みのある樹形が織り成す景色は、色とりどりの絨毯を敷き詰めたような華やかさ。晴れた日には富士山とツツジのコラボレーションも堪能できます。日本画を得意とした男爵は、庭園をつくる際、大自然を巧みに取り入れ、一幅の画のように仕上げたとされています。“小田急 山のホテル”の庭園も、傾斜を計算しつつ見事さで、富士山に向かってツツジが駆け上がるように配されています。

ツツジ園の奥にはシャクナゲ園があり、これも男爵の別邸時代に造られたもの。ツツジと前後して咲く艶やかな20種300株のシャクナゲも、庭園の中で存分に愉しめます。さらに6月中旬になるとバラが見頃となり、庭を彩るバラは約30種300株。ホテル庭園の一角にあるローズガーデンは、この時期になると甘い香りで包まれます。

また、庭園はアジサイや紅葉など、四季を通して楽しむことができます。メイン園路も歩きやすいように舗装され、斜面にはスロープを設けるなど、車椅子やご年配の方もスムーズに、安心して“庭園巡り”が楽しめるようになっています。

100年の歴史を持つ庭園は、専門のスタッフが丹精込めて受け継いで、この華やかさを維持しています。

◆ 花 DATE ◆

ツツジの見頃

5月上旬～中旬

シャクナゲの見頃

5月中旬～下旬

バラの見頃

6月中旬～7月上旬

庭園一般開放期間

ツツジ開花中

※開花状況はホテルのHPで確認できます

庭園見学料

800円

見学時間

9:00～17:00



ローズガーデン



希少品種のひとつ
「峰の松風」

2016年庭園プロジェクト 調査で希少品種の存在判明

ホテルでは庭園の維持・再生を目的に、山のホテル庭園プロジェクト「男爵の100年ツツジ 100年先への挑戦」を、2015年より10カ年計画でスタートさせました。

2016年は、庭園のツツジ・シャクナゲの品種調査を実施。現地で調査を行った結果、貴重な品種が存在することが分かり、「全国的に見ても第一級の価値がある」との報告も受けています。2017年も引き続き調査を重ねていく計画です。

庭園プロジェクトで「品種調査」を実施

山のホテル庭園プロジェクトでは、2016年に「ツツジ・シャクナゲの品種調査」を実施しました。品種調査は、2016年5月のツツジ開花時に、ツツジ・シャクナゲの研究者倉重祐二氏により行われました。目的は、ツツジおよびシャクナゲの品種名の同定（植物分類上の所属を決定すること）と、貴重品種の選別、今後の健全な育成を目指した管理方法の指導の3点。調査の結果、ツツジ・シャクナゲともに相当な樹齢の大株が多く、日本では他に栽培例の少ない希少品種等が多数栽培されていることが分かりました。

ツツジ園で見つかった希少品種の「峰の松風」は江戸時代前期の園芸書に記載が見られ、「京鹿の子」は大正期に発表されたものです。いずれも、現在も稀に栽培はされていますが、すでに生産はされていない品種であり、大変貴重なツツジであることが判明しました。

2017年は、引き続き詳細な調査を実施するとともに、長期的な視野に立った栽培管理として、春に庭園の土壌改良を開始する予定です。



峰の松風



京鹿の子



倉重祐二プロフィール

神奈川県横浜市生まれ。千葉大学大学院園芸学研究科修了。赤城自然園（群馬県）を経て、現在は新潟県立植物園副園長。ツツジ属の栽培保全や系統進化、花卉園芸文化史を専門とする。「趣味の園芸」(NHK)に講師として出演。著書に『よくわかる栽培12か月 シャクナゲ』(NHK出版)、『増補原色日本産ツツジ・シャクナゲ大図譜』(改訂増補、誠文堂新光社)、『日本の野生植物』(平凡社)など。

ツツジプロジェクト「男爵のツツジ」のDNAを残すために

2015年から始まった、岩崎小彌太男爵別邸時代に植えられたツツジのDNAを残す「ツツジプロジェクト」。このプロジェクトでは、新たな木を植えるのではなく、古いツツジを挿し木で増やすという手法を取りました。

この苗木育成に協力を仰いだのが、新潟市にある農園です。新潟県は、ツツジ・シャクナゲの生産量が日本一で、花卉農家も多くあります。また、育成や研究の歴史もあり、苗木を育てるのに最適な場所でした。

初年度の2015年は、まず男爵が植えたツツジのうち、「小紫」や「八重げら」など6品種の穂木（穂先10cmほど）を開花後に採取（写真①、②）。新潟に送られた穂木は苗床で、育成されます。（写真③）さらに、2016年6月には、第2弾として5品種のツツジの穂木が新潟に送られ、現在も順調に育っています。（写真④）

これらの苗が30cmほどに成長したら、山のホテルへ戻され、庭園の一角にある圃場にて育成されます。8～10年かけて、70cm前後に育ったら庭園に定植される予定で、DNAを残すための長期に渡る計画となっています。



① 山のホテルにて穂木を採取



② 穂木を水につけた後、袋に空気を入れて新潟へ



③ 新潟にてハウス内の苗床に植え込み



④ 鉢に植え替えて育成中（2016年12/2 現在の様子）

ツツジに続き、シャクナゲプロジェクトも

ツツジ園の奥の急斜面に位置するシャクナゲ園では、西洋シャクナゲや日本シャクナゲなど約20種300株が育てられ、ツツジと前後して見頃を迎えます。男爵が留学先のイギリスから取り寄せた西洋シャクナゲは、日本で最初に輸入された、学術的に大変貴重なものだとも言われています。

男爵は、清涼な気候を好むシャクナゲのために散水器を設置。当時としては最高の技術を使って環境づくりに努め、花を楽しみました。

ホテルではツツジと同様、シャクナゲも貴重な品種のDNAを残していくことを計画。2015年12月、こちらは接木による再生プロジェクトを開始しました。対象となった品種は、「ゴーマー・ウォーターラー」と「マイケル・ウォーターラー」の2種。こちらも新潟の農園に10～15cm長さの穂木を各10本送り、成育旺盛なシャクナゲの幹を切って断面どうしを接着して接木し、育成。2年後には、40cmほどに育った苗をホテルの庭園に植える予定です。

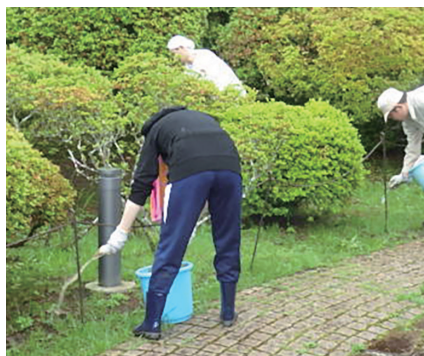


ゴーマー・ウォーターラー



接木された苗

お礼肥、剪定、雪下ろしなど、年間を通じてツツジをお手入れ



美しく咲き終えた株に、お礼肥で栄養補給

次の年も美しく咲かせるための世話は、開花後、栄養を使い切って消費したツツジの根元に肥料を与えることから始まります。美しい花を咲かせてくれたツツジへ、お礼の気持ちを込めた「お礼肥」は、社員総出で行います。一株一株、株の周りに20～30ヵ所の穴を掘り、丁寧に施した肥料は、次の花芽を育てる大切な栄養分となります。



剪定も1年で大切な作業。一枝一枝見極めて丈夫な株を作ります

6月半ばには刈り込みが行われます。刈り込むと枝分かれしてたくさん花芽がつき、翌春により多くの花を咲かせます。来年の花芽がつく直前に、スタッフ総動員で、2～3日で一気にいきます。また、剪定は1年をとおして、こまめに。枝が込み合っていると風通しが悪くなり、苔やカビがつくなどして、木が弱ってしまうのです。



消毒、殺虫、落ち葉清掃……秋冬もお世話は続きます

株を虫や病気から守るために殺虫・消毒作業や除草も欠かせません。苔やカビはブラシで丁寧にそぎ落としますが、大きな株になると2人で1日かかるほど。秋は落ち葉の除去、冬は雪からの保護が大事な作業になります。積もるような雪が降るときは、何度も降っている最中の雪下ろし。積もったままにしておくと、雪の重みで枝が折れてしまうのです。

◆◆◆ 花の主な種類 ◆◆◆

ツツジ——約30種 3,000株（見頃:5月上旬～中旬）麒麟（きりん）、若鷺（わかさぎ）、紅霧島、八重げら、花車、小紫、峰の松風、京鹿の子、ヤマツツジ、ゴヨウツツジなど

シャクナゲ——約20種300株（見頃:5月中旬～下旬）ゴーマー・ウォーター、マイクル・ウォーター、フォーチュネイ、ウィリアム・オースティン、キョウマルシャクナゲ、ホソバシャクナゲ、ツクシシャクナゲなど

バラ——約30種300株（見頃:6月中旬～7月上旬）ホワイトクリスマス、ダブルデライト、アイスバーグ、ゴールドバニー、チャールストン、ジュリア、マチルダ、クイーンエリザベス、ブルグント81など

版画家・川瀬巴水が庭園を描いた「絵葉書」新発売！

岩崎小彌太男爵の別邸時代、この地は「見南山荘」と呼ばれていました。昭和10年、男爵は当時の風景版画家の第一人者・川瀬巴水に別邸庭園を描くよう依頼しました。そして、美しいツツジの庭園や風情ある雨の夜の庭園など全6点の版画が完成し、絵葉書も作られました。このたび、この版画の絵葉書を新たに制作し、ホテル売店などで販売します。

商品名 絵葉書 川瀬巴水「元箱根見南山荘風景」

価格 6種類 各1枚 ¥108（税込） ケース入り6枚セット ¥648（税込）



左より
つつじ庭に遊ぶ二美人
つつじ庭より富士を見る
湖畔茶室の夜雨
ベランダより見るつつじ庭
あけび橋の月
芦ノ湖の夕富士



川瀬巴水プロフィール

川瀬巴水（1883-1957）は、大正・昭和に活躍した版画家。美人画家として著名な鏗木清方に師事。その後、伊東深水らと共に大正・昭和の浮世絵ともいうべき「新版画」の制作に取り組む。日本各地の風景を叙情豊かに表現し、「旅情詩人」などと呼ばれ、高い評価を受ける。葛飾北斎、歌川広重と並んで海外での人気も高い。

『小田急 山のホテル』概要

客 室 全89室 収容人数 189名

◆スタンダードツイン	(30㎡)	76室
◆コーナーデラックスツイン	(45㎡)	1室
◆コーナートリプルルーム	(45㎡)	3室
◆富士山ビューデラックスツイン	(50㎡)	1室
◆富士山ビュー和洋室	(81㎡)	1室
◆プレミアムフォース(源泉掛け流しビューバス付き)	(67㎡)	1室
◆プレミアムツイン(源泉掛け流しビューバス付き)	(59㎡)	4室
◆温泉付き和洋室	(63㎡)	2室

★チェックインタイムは15:00、チェックアウトタイムは12:00。

交通

- 電車・バス ◆新宿から箱根湯本まで小田急ロマンスカーで約85分。
箱根湯本から「元箱根港」まで路線バスで約40分。
元箱根港より徒歩15分。
- ◆新宿から山のホテルまで小田急箱根高速バスで約150分。
- 車 ◆小田原厚木道路から箱根新道経由、元箱根へ。
芦ノ湖大観I.C.より約10分。

所在地

〒250-0522 神奈川県足柄下郡箱根町元箱根80
☎0460-83-6321

ホームページアドレス

<http://www.hakone-hoteldeyama.jp/>

ツツジの開花情報や宿泊プランなど、ホテルの最新情報をご覧いただけます。

★ホテル諸施設の写真を揃えております。

ご入用の際、または取材に関しましては、(株)小田急エージェンシーまでご連絡ください。

○このリリースに関するお問い合わせ

株式会社 小田急エージェンシー ☎03-3344-5988 press@odakyu-ag.co.jp

○貴誌(紙)・貴番組にてご紹介いただく際の読者からのお問い合わせ先

小田急 山のホテル ☎0460-83-6321